

人生 100 年時代の 老年泌尿器科診療

企画にあたって

わが国は超高齢社会を迎え、泌尿器科診療において高齢者を対象とすることが多くなりました。高齢者の泌尿器科疾患に対する診療は、中高年者とは若干異なります。そこで本号では「人生 100 年時代の老年泌尿器科診療」と題して特集を組ませていただきました。

総論ではまず中村先生から、高齢者がん診療ガイドラインについて概説いただきました。高齢者のがん診療においては主観的なアウトカムが必要であること、そしてより多職種によるチーム医療が重要であることを述べていただいております。一方、橘田先生からは過活動膀胱診療ガイドラインについて、高齢者治療に絞ってご執筆いただきました。高齢者特有のフレイルの問題、特に身体機能や認知機能の低下に対して気をつけるべきことを述べていただきました。

疫学については、大日方先生に全国がん登録と院内がん登録について詳細に述べていただいたのち、高齢者泌尿器がんの疫学について概説いただきました。三井先生には、最近日本排尿機能学会で約 20 年ぶりに行われた疫学調査の最新の結果を、高齢者に絞って述べていただきました。

各論ではまず悪性腫瘍について、「高齢者薬物療法の適応，方法，マネジメントのコツ」を戸田先生に総論的にご解説いただいたのち、高齢者の腎癌，尿路上皮癌，前立腺癌について、それぞれ加藤先生，早川先生，星先生にわかりやすくご解説いただきました。良性疾患については尿路結石，尿路感染症，前立腺肥大症について、それぞれ藤田先生，安田先生，大塚先生にご解説いただき、また高齢者の排尿障害で最も悩むカテーテル管理については里地先生にご解説いただきました。非常に充実した内容となっておりますので、是非ご一読いただき、皆様の高齢者泌尿器科診療に少しでもお役に立てていただければ幸いです。

福島県立医科大学医学部
泌尿器科学講座

小島 祥敬